

## III-3 リハビリテーション学科

### 1. 概要

#### 1) 教育目的

本学の建学の精神である「共生社会の実現」を目指し、社会に貢献するリハビリテーション専門職業人の育成を目的とする。

#### 2) 教育目標

##### 【教育目標—養成する人材像】

リハビリテーション学科の教育目的を達成するための教育目標（養成する人材像）は以下のとおりである。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる人材の育成
2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係を形成できる人材の育成
3. リハビリテーション学に関する専門的知識と技術を修得し、リハビリテーションの実践ができる人材の育成
4. リハビリテーション専門職としての倫理的な態度を身につけ、研鑽し続けることができる人材の育成
5. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる人材の育成
6. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力で自己成長できる人材の育成

#### 3) 学科の方針

##### 【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、リハビリテーション学科における卒業時の到達目標であるディプロマ・ポリシーは、以下の能力を獲得することとする。

1. 人権や多様な個性を尊重し、倫理的態度を持って共生社会の実現に寄与する能力
2. リハビリテーション学に関する高い専門性と豊かな人間性を發揮して地域社会に貢献し、リハビリテーションの向上に寄与する能力
3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働する能力
- 4-1. 科学的根拠に基づき、良質な理学療法を提供する能力（理学療法学専攻）
- 4-2. 科学的根拠に基づき、良質な作業療法を提供する能力（作業療法学専攻）
5. 論理的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力

##### 【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーを具現化するために、講義、演習、実習等を組み合わせて科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、倫理的態度を持って共生社会の実現に寄与する能力を育成するために、基礎教育科目を配置する
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる人材を育成するために、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
3. 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能及び心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 4-1. 対象者の運動機能の維持、改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成するため、理学療法評価法および治療法を学ぶ専門教育科目を配置する（理学療法学専攻）

- 4-2. 対象者の主体的な生活の獲得、またはそれを支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の実践能力を育成するため、作業療法評価法および治療法を学ぶ専門教育科目を配置する（作業療法学専攻）
5. 将来のリハビリテーションの専門職業人としての自覚を持ち、豊かな人間性と社会性を養うために、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

### 【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

養成する人材像やディプロマ・ポリシーの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、リハビリテーション学科のアドミッション・ポリシーでは以下の人物を求める。

1. 理学療法学・作業療法学に関わる専門的知識・技術・態度を学ぶために必要な基礎学力を有する人
2. 適切な対人関係能力の発展に必要な基礎的コミュニケーション能力を有している人
3. 知的好奇心を持ち、探究心と創造力で自ら学ぶ意欲を持つ人
4. 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配ることができる人
5. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
6. 自己の強みや弱みを客観視でき、成長に向けて努力できる人

## 4) 教育課程

### (1) 教育課程の特色

#### ① 保健医療学部 5 学科共通

各教育課程をより効果的に進行するために、入学前に高大接続期間を設けリメディアル教育の一環として「初年次教育」、「学力確認テスト」さらに、入学後「スタートアップ講座」を配置しています。

#### ② リハビリテーション学科の特色

リハビリテーションとは、単に手足の機能回復などの部分的な意味にとどまるものではなく、人間全体として「人間らしく生きる権利の回復（全人間的復権）」を意味するものです。これを遂行するために理学療法士・作業療法士は、科学的思考に基づいた専門的知識・技術を用いて、保健医療福祉チームと協働してリハビリテーションサービスを提供します。

リハビリテーション学科では、様々な状況や環境にある国民のリハビリテーションに対する期待に応えられるリハビリテーション専門職としての理学療法士・作業療法士の育成を目指しています。本学のカリキュラムは、医療技術の高度化、多様化に対応できる幅広い教養とグローバルな視野を持ち、主体的に学び、考え、行動する人材の育成及び地域医療・福祉に貢献することができるよう構成されています。

### (2) 教育課程の編成

教育課程の編成は、人材育成に必要な内容を授業科目として設定し、「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域で編成しています。また、理学療法士・作業療法士の養成施設としての指定規則条件を充足しつつ、選択科目を多く開講し、リハビリテーション学科で掲げた人材育成に必要な科目を配置しています。

教育課程の各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域に配置した各教科の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、基礎教育科目→専門基礎教育科目→専門教育科目において、講義内容が順次理解できるように、内容の連続性と関連性を重視しています。教育科目の開講年次および前期、後期への配分については、

これらのこととを十分に考慮して配置しています。

### (3) 教育課程進度表

#### ① 科目配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に配置しています。

リハビリテーション医学は「ヒト」を対象に研究する学問ですので、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための教育科目は、「基礎教育科目」として低学年に配置し、人間にに関する学際的な学問領域の教育科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教育科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、理学療法士・作業療法士として必要な専門的知識・技術はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えていますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」が関連付けて学修できるように、「専門教育科目」を1年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り配置しています。

#### ② 学年の特徴

1年次では、「基礎教育科目」を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」を配置しているのは、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

2年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる実習でリハビリテーション領域の広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

#### ③ 臨床実習

リハビリテーション学は実践の科学であり、そのために必要な臨床実習には多くの時間を割いています。臨床実習は、既修の理論と知識、技術、態度を体験的に学ぶ学修であり、また、臨床実習の体験から、リハビリテーションの現象を意味付け、リハビリテーションを知として学ぶ学修でもあります。特に「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」は、当該領域の講義・演習を学修したのちに実習を配置しています。

#### ④ 主体的学修

学修の主体は、学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで、自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個別性に応じて、多領域にわたり、学問的興味や関心を持つことができるることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をとおして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

## 2. 履修について

履修とは、「必修・選択科目を確認のうえ単位修得を希望する科目について登録し、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」という過程を意味します。履修登録にあたり、『履修の手引き』・『シラバス』・『授業時間割』を熟読のうえ、履修計画を立ててください。1年間の履修計画を立て、前期の履修登録期間中に後期分の履修登録も行ってください。

### 1) 履修の上限単位（CAP制）

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、学年ごとに履修登録科目数の上限制度であるCAP（キャップ）制を導入しています。各学年が履修できる1年間の総単位数に上限を設定することで、各学科のディプロマ・ポリシーを達成するための学修を計画的に進められるよう適切に授業科目を履修できることを目的とした制度です。

（2025年度入学生）

学 年	1年間の上限
1 年	50単位
2 年	35単位
3 年	38単位
4 年	21単位

### 2) 履修登録スケジュール

履修登録および履修登録変更のスケジュールは該当年度の「履修の手引き」等で確認してください。

### 3) 履修登録変更期間について

履修登録内容を誤った場合や、授業内容が自分の学修したい内容と異なっていた場合、もしくは履修計画を見直したい場合は、定められた期間で履修登録変更の手続きを行ってください。やむを得ない事情による所定の期間外の履修登録および変更是、教務委員長の許可が必要になります。

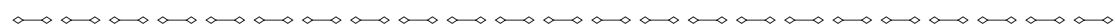
履修登録変更の手続きについての詳細は該当年度の「履修の手引き」およびユニバーサルパスポートで周知します。

### 4) 履修上の注意

卒業に必要な科目履修、単位の管理は、学生自身の自己責任となります。「履修の手引き」とシラバス等を活用して、履修方法、単位認定、試験等にかかる事項を十分に確認しておきましょう。

また、堅実な履修計画を立て、単位を管理し、4年間の履修計画を立てておきましょう。

- ① すでに単位を修得している科目を履修することはできません。
- ② 教育上やむを得ないと認められる場合は、履修登録の事前または事後に履修人数を調整することができます。
- ③ 授業時間が重複する科目を履修することはできません。
- ④ 各学年において、上級学年に履修する授業科目を履修することはできません。
- ⑤ 臨床実習の履修には、先修要件があります。先修要件を満たしていない場合は、実習を履修できません。



臨床実習に関わる科目を履修するためには、履修規程第19条の進級要件を満たし、かつ次に定める科目の単位を修得していかなければなりません。

### 理学療法学専攻

臨床実習科目	先修要件
臨床実習Ⅰ	1年次前期のリハビリテーション論、理学療法概論を修得し、2年次前期の必修科目的単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅱ	3年次前期までの必修科目的単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅲ	3年次後期までの必修科目的単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅳ	3年次後期までの必修科目的単位をすべて修得していること

### 作業療法学専攻

臨床実習科目	先修要件
臨床実習Ⅰ	1年次前期のリハビリテーション論、作業療法概論を修得し、2年次前期の必修科目的単位をすべて修得していること
地域臨床実習	2年次後期までの必修科目的単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅱ	3年次前期までの必修科目的単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅲ	3年次後期までの必修科目的単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅳ	3年次後期までの必修科目的単位をすべて修得していること

## 3. 単位修得について

### 1) 卒業要件総単位数（2025年度入学生）

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

#### 理学療法学専攻

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	小計
必修単位	12 単位	41 単位	61 単位	114 単位
選択単位	8 単位以上	1 単位以上	4 単位以上	13 単位以上
小計	20 単位以上	42 単位以上	65 単位以上	127 単位以上

#### 作業療法学専攻

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	小計
必修単位	12 単位	41 単位	67 単位	120 単位
選択単位	8 単位以上	1 単位以上	2 単位以上	11 単位以上
小計	20 単位以上	42 単位以上	69 単位以上	131 単位以上

### 2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1単位とは、学生が1科目について行う45時間（2単位の場合は90時間）の学修活動を意味し、その学修活動とは授業と事前・事後学修からなります。授業科目の1単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や事前・事後学修時間等を考慮したものです。

〈1単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
実験・実習・実技	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。	1つの授業科目の中に 講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

### 3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の規定回数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

## 4. 履修科目について

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

### 1) 基礎教育科目

必修科目12単位、選択科目から8単位以上選択

「科学的思考の基礎」

必修科目7単位、選択科目から3単位以上選択

リハビリテーション学の基礎となる学問的探究心と科学的思考力を養います。

「人間と生活及び社会の理解」

必修科目2単位、選択科目から4単位以上選択

人間にに関する学際的な学問領域について学び、価値観や人間観を育て、主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けています。

「語学」

必修科目3単位、選択科目から1単位以上選択

語学学修を通して、他者との交流におけるコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

### 2) 専門基礎教育科目

必修科目41単位、選択科目から1単位以上選択

「人体の構造と機能及び心身の発達」

必修科目20単位

リハビリテーション学を学ぶ上で必修の基礎知識である人体の構造と機能及び心身の発達について、解剖学、生理学、運動学を中心に学びます。

「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」

必修科目15単位、選択科目から1単位以上選択

リハビリテーションの対象となる疾病や障害の成り立ち及び回復過程の促進について、基礎医学を学修するとともに、理学療法士・作業療法士の臨床場面において、障害を把握できる能力を養い、問題解決能力の基礎となる知識を修得します。

「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」

必修科目6単位

保健医療福祉チームの一員として、かつリハビリテーションを共通言語とした他職種との連携・協働力の育成に必要なコミュニケーションのあり方やチーム医療を総合的に学修します。

### 3) 専門教育科目

卒業要件：[理学療法学専攻] 必修科目を含む65単位以上

[作業療法学専攻] 必修科目を含む69単位以上

専門教育科目は、専攻別に以下の区分で設定されています。

#### [理学療法学専攻]

「基礎理学療法学」

**必修科目 7 単位**

理学療法の概要を知るとともに、「理学療法セミナーⅠ～Ⅲ」においては学年に応じた臨床実習に向けて科学的思考を模擬的に学修し、かつ学生が主体的に学修する能力を身につけます。これらは、探求型課題解決学習能力の修得に繋がるものです。

「理学療法評価学」

**必修科目 8 単位**

疾病や障害に応じた理学療法評価を学び、それらの結果を統合・解釈する能力を養います。

「理学療法治療学」

**必修科目 20 単位、選択科目から 4 単位以上選択**

疾病や障害に応じた理学療法を提供するための知識と技術を学びます。また、「高齢期障害理学療法学」では、障害者のみならず、健康な高齢者に対する健康増進や介護予防の領域での予防的リハビリテーションの各論を学びます。

「地域理学療法学」

**必修科目 4 単位**

地域リハビリテーションの概念・背景などに基づく、理学療法士の役割や他職種との連携のあり方を住環境整備もふくめて学びます。

「理学療法臨床実習」

**必修科目 20 単位**

臨床実習は、既修の理論と知識、技術、態度を病院等の臨床の場で体験的に学びます。「臨床実習Ⅰ」では、理学療法士の社会的な意義を理解するとともに、臨床実習指導者のもとで理学療法に関連する見学をします。「臨床実習Ⅱ」では、臨床実習指導者のもとで、対象者を理解するための理学療法評価を実施し、理学療法計画を立案します。「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」では、臨床実習指導者のもとで、理学療法評価、計画立案から実施までの一連の過程を実施・体験するとともに、他職種との連携・協働など専門職としてあるべき行動を実習します。

「理学療法管理学」

**必修科目 2 単位**

リハビリテーション専門職として基礎となる生命倫理、および職業倫理を学ぶとともに、職場の管理業務に必要な管理学の基礎知識と実践について学びます。

内容はリハビリテーション部門のマネジメントや診療管理、診療・介護報酬の仕組みなど多岐にわたり、業務遂行に必要な各種法令について最新の状況を学修します。

**[作業療法学専攻]****「基礎作業療法学」****必修科目 8 単位**

作業療法の概要を知るとともに、「作業療法セミナーⅠ～Ⅲ」においては学年に応じた臨床実習に向けて科学的思考を模擬的に学修し、かつ学生が主体的に学修する能力を身につけます。これらは、探求型課題解決学習能力の修得に繋がるものです。

**「作業療法評価学」****必修科目 6 単位**

疾病や障害に応じた作業療法評価を学び、それらの結果を統合・解釈する能力を養います。

**「作業療法治療学」****必修科目 20 単位、選択科目から 2 単位以上選択**

疾病や障害に応じた作業療法を提供するための知識と技術を学びます。また、「高齢期障害作業治療学」では、障害者のみならず、健康な高齢者に対する健康増進や介護予防の領域での予防的リハビリテーションの各論を学びます。

**「地域作業療法学」****必修科目 4 単位**

地域リハビリテーションの概念・背景などに基づく作業療法士の役割や他職種との連携のあり方を、住環境整備もふくめて学びます。

**「作業療法臨床実習」****必修科目 27 単位**

臨床実習は、既修の理論と知識、技術を病院等の臨床の場で体験的に学びます。「臨床実習Ⅰ」では作業療法士の社会的な意義を理解するとともに、臨床実習指導者のもとで、施設における作業療法の見学を行います。「地域臨床実習」では、地域社会の中での作業療法の在り方を見学し、これからの予防医療の在り方を学びます。「臨床実習Ⅱ」では、臨床実習指導者のもとで対象者を理解するための作業療法評価を実施し、作業療法計画を立案します。「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」では、臨床実習指導者のもとで、治療を含めた作業療法の一連の流れを体験します。専門職としてのるべき行動についても体験します。

**「作業療法管理学」****必修科目 2 単位**

「リハビリテーション管理学」として、専門職としての行動規範、組織の中での個人の在り方などを含めて、実習や卒後を見据えて学修します。

## 〈履修科目一覧 理学療法学専攻（2025年度カリキュラム）〉

科目区分		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
科学的思考の基礎教育科目	必修	スタートアップ講座[1] 心理学[1] 情報科学[1]	生活と運動[1] 統計学[1]	人間発達学[2]					卒業認定に必要な単位数 10単位以上 (必修科目7単位を含む)
	選択	生物学[1] 生物物理学[1] 環境科学演習[1] 情報科学演習[1]	発達心理学[1] 生活科学[1] 健康とスポーツ[1]						
	必修	倫理学[1]	医療と社会[1]						6単位以上 (必修科目2単位を含む)
	選択	論理学[1] 人間関係の科学[1] 法医学[1] 教育学[1] 北海道史[1]	生命倫理[1] 医療と哲学[1] 医療と宗教[1] 文化人類学[1]	ボランティア論[1] 音楽[1]					
	必修	日本語表現[1] 英語I[1]	英語II[1]						4単位以上 (必修科目3単位を含む)
	選択		中国語[1]	英語III[1] 韓国語[1]	英語IV[1]				
	必修	心と人体の構造 及び発達 及び病と障害の 回復過程の 成り立ち	解剖学I[2] 解剖学演習[2] 体表解剖学[1] 生理学I[2]	解剖学II[2] 生理学II[2] 運動学I[2]	解剖学特論[1] 生理学演習[1] 運動学II[2]	生理学特論[1] 運動学特論[1]			20単位
	必修	栄養学[1]	病理学[2] 薬理学[1] 予防医学[1]	整形外科学[2] 神経障害学[2]	内科学[2] 精神障害学[1] 発達障害学[1] 生体情報論[1]	応急処置法[1]			16単位以上 (必修科目15単位を含む)
	選択					心の健康科学I[1] 教育心理学[1]	心の健康科学II[1]		
	必修	リハビリテーション論[2] 総合医療論[1]				社会福祉学[1]	チーム医療論[1]	健康政策論[1]	6単位

科目区分		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎理学 療法	必修	理学療法概論 [1] 理学療法セミナーⅠ[1]	理学療法演習 [1] 理学療法セミナーⅡ[1]	理学療法セミナーⅡ[1] 理学療法評価学Ⅰ[1]	理学療法評価学Ⅲ[1] 理学療法評価学演習Ⅲ[1]	理学療法研究法 [1] 臨床判断学 [1]	理学療法セミナーⅢ[1] 理学療法総合演習 [1]	理学療法セミナーⅣ[1] 理学療法総合演習 [1]	卒業認定に 必要な単位数
理学療法 評価学	必修	理学療法評価学Ⅰ[1] 理学療法評価学演習Ⅰ[1]	運動器系検査法[筋・加齢] [1]	運動療法学 [1] 臨床神経機能解剖学 [1]	運動療法学演習 [1] 運動器障害理学演習 [1]	運動器障害理学療法学 [1] 運動器障害理学演習 [1]	内部障害理学療法学 [1] (呼吸器) [1]	内部障害理学療法学 [1] 代謝・免疫系障害理 学療法学 [1]	7単位
理学療法 治療学	必修	必修	選択	選択	選択	選択	選択	選択	8単位
専門教育科目									
物理理学 治療学									
理学療法地域 学	必修								
理学療法臨 床実習	必修								
管理理學	必修								
CAP制(履修上限)	CAP制(履修上限)	50単位	35単位	35単位	38単位	38単位	30単位	30単位	114単位
○卒業要件 127単位以上 必修114単位、選択13単位以上	○〔 〕内は、単位数	53単位	38単位	17単位	8単位	0単位	17単位	0単位	32単位
		50単位	35単位	38単位	38単位	21単位	17単位	17単位	146単位
									144単位

## 〈履修科目一覧 作業療法学専攻 (2025年度カリキュラム)〉

科目区分		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
科学的思考の基礎 人間と社会の理解及び 基礎教育科目	必修	スタートアップ講座 [1] 心理学 [1] 情報科学 [1]	生活と運動 [1] 統計学 [1]	人間発達学 [2]					卒業認定に 必要な単位数 10単位以上 (必修科目7単 位を含む)
	選択	生物学 [1] 物理学 [1] 環境科学 [1] 情報科学演習 [1]	発達心理学 [1] 生活科学 [1] 健康とスポーツ [1]						
	必修	倫理学 [1]	医療と社会 [1]						6単位以上 (必修科目2単 位を含む)
言語学	選択	論理学 [1] 人間関係の科学 [1] 法学 [1] 教育学 [1] 北海道史 [1]	生命倫理 [1] 医療と哲学 [1] 医療と宗教 [1] 文化人類学 [1]	ボランティア論 [1]	音楽 [1]				
	必修	日本語表現 [1] 英語 I [1]	英語 II [1]						4単位以上 (必修科目3単 位を含む)
	選択		中国語 [1]	英語 III [1] 韓国語 [1]	英語 IV [1]				
専門基礎教育科目	必修	解剖学 I [2] 解剖学演習 [2] 体表解剖学 [1] 生理学 I [2]	解剖学 II [2] 生理学 II [2] 運動学 I [2]	解剖学特論 [1] 生理学演習 [1] 運動学 II [2]	生作業特論 [1] 運動学演習 [1]				20単位
	必修	栄養学 [1]	病理学 [2] 薬理学 [1] 予防医学 [1]	整形外科学 [2] 神経障害学 [2] 発達障害学 [1] 生体情報論 [1]	内科学 [2] 精神障害学 [1] 発達障害学 [1] 心の健康科学 II [1]	応急処置法 [1]			16単位以上 (必修科目15 単位を含む)
	選択	疾病及び回復過程の成り立ち 及び回復過程の促進		心の健康科学 I [1] 教育心理学 [1]	心の健康科学 II [1]				
専門基礎教育科目	必修	リハビリテーション論 [2] 総合医療論 [1]		社会福祉学 [1]	チーム医療論 [1]	健康政策論 [1]			6単位
		保健医療福祉と ショパンの理念							

科目区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	4年 卒業認定に 必要な単位数
療作業基礎学 評価・検査法	必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	8単位
作業療法治療学 専門教育科目	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	27単位
地域作業療法学 臨床実習法 管理作業療法学	必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	必修	2単位
必修科目	37単位		31単位		33単位		19単位	120単位	
選択科目	17単位		7単位		7単位		0単位	31単位	
計	54単位		38単位		40単位		19単位	151単位	
CAP制(履修上限)	50単位		35単位		38単位		21単位	144単位	

○卒業要件 131単位以上 必修120単位、選択11単位以上  
○〔 〕内は、単位数

## カリキュラム・マップ 理学療法学専攻（2025年度カリキュラム）

※ DP : ディプロマポリシー

DP	科学的思考の基礎		人間と社会の理解		語学		人体の構造と機能及び心身の発達		疾病と障害の成り立ち及び回復過程		保健医療福祉とリハビリテーションの理念		基礎理学療法学	
	スタートアップ論議(必1)	倫理学(必1)	日本語表現(必1)	日本語表現(必1)	英語I(必1)	英語II(必1)	中国語(選1)	解剖学I(必2)	病理学(必2)	疾患と哲学(選1)	リハビリテーション論議(必2)	理学療法概論(必1)	理学療法評価学I(必1)	理学療法管理学

- DP1. 人権や多様な個性を尊重し、倫理的態度を持つ  
DP2. リハビリテーションにに関する高い専門性と豊かな  
DP3. 論理的思考をもって主体的に学修し、良質な理学療法を提供する能力  
DP4-1. 科学的根拠に基づき、良質な理学療法を提供する能力  
DP5. 対象者のために寄与する能力  
DP6. 地域社会に貢献し、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働する能力  
DP7. 对象者とのコミュニケーション能力

- DP1. 人権や多様な個性を尊重し、倫理的態度を持つ  
DP2. リハビリテーションに寄与する能力  
DP3. 対象者のために寄与する能力  
DP4-1. 科学的根拠に基づき、良質な理学療法を提供する能力  
DP5. 論理的思考をもって主体的に学修し、良質な理学療法を提供する能力  
DP6. 地域社会に貢献し、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働する能力  
DP7. 对象者とのコミュニケーション能力

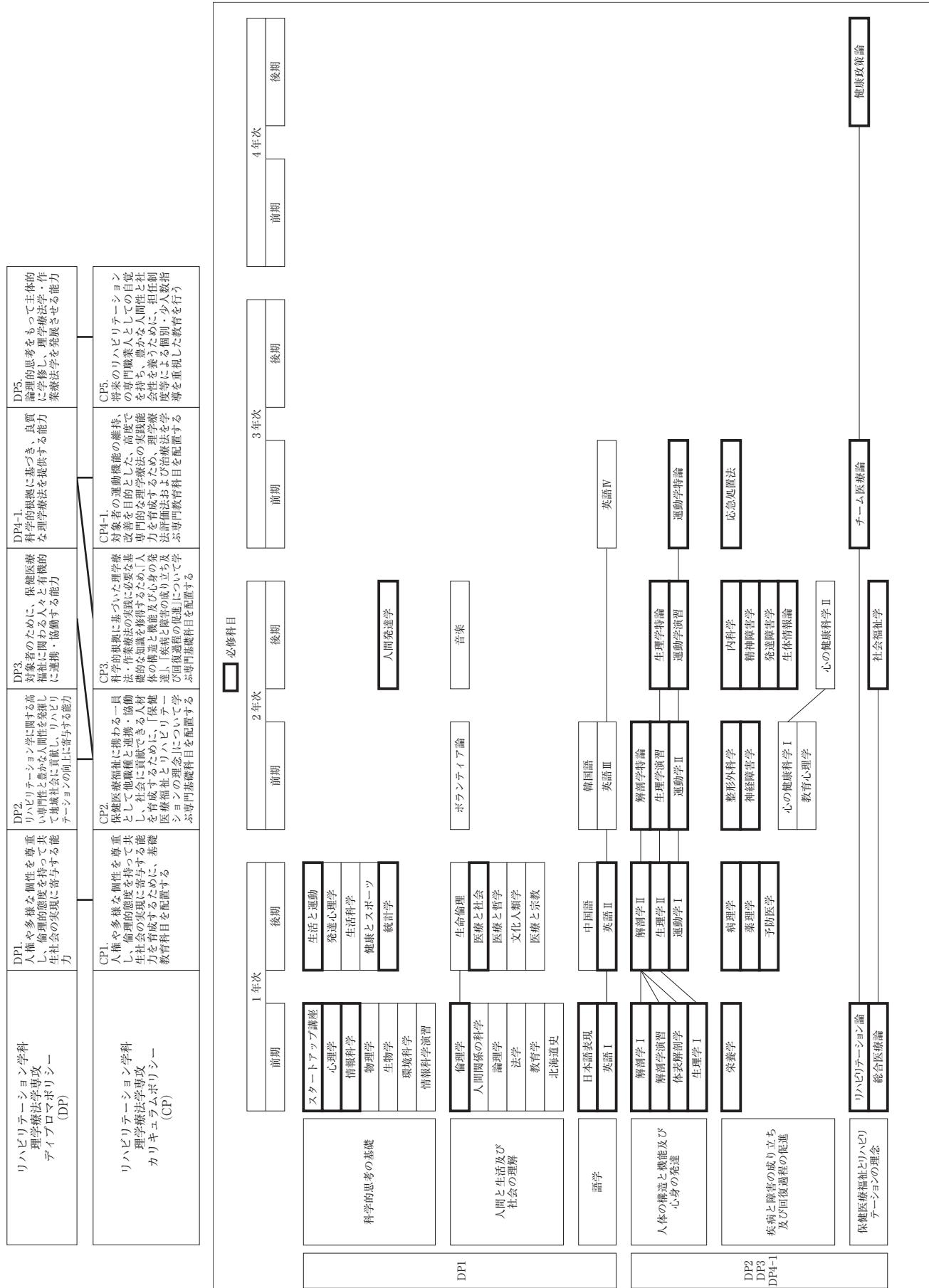
科目区分	基礎教育科目		専門基礎教育科目		専門教育科目		専門基礎教育科目		専門教育科目		専門基礎教育科目		専門教育科目		
	科目名	内容	科目名	内容	科目名	内容	科目名	内容	科目名	内容	科目名	内容	科目名	内容	
1年次	スタートアップ論議(必1)	倫理学(必1)	日本語表現(必1)	日本語表現(必1)	英語I(必1)	英語II(必1)	中国語(選1)	解剖学I(必2)	病理学(必2)	疾患と哲学(選1)	リハビリテーション論議(必2)	理学療法概論(必1)	理学療法評価学I(必1)	理学療法管理学	
	心理学(必1)	生命倫理(選1)	生物学(選1)	生物化学(選1)	人体解剖学(選1)	体表解剖学(選1)	予防医学(選1)	解剖学II(必2)	薬理学(必2)	薬理学(選1)	総合医療論(必1)	理学療法概論(必1)	理学療法評価学演習I(必1)	理学療法管理学	
	物理医学(必1)	発達心理学(選1)	生体物理学(選1)	生体物理学(選1)	生理学I(必2)	生理学II(必2)	運動学I(必2)	運動学II(必2)							
	環境科学(選1)	生活科学(選1)	健康と運動(必1)	健康と運動(必1)	医療(選1)	文化人類学(選1)	医療と社会(必1)	法医学(選1)							
	統計学(必1)	統計学(必1)	統計学(必1)	統計学(必1)	教育学(選1)	教育学(選1)	北海道史(選1)								
	情報科学演習(選1)														
2年次	人間発達学(必2)	音楽(選1)	英語III(選1)	英語III(選1)	解剖学特論(必1)	心の健診科学I(選1)	心の健診科学II(選1)	社会福祉学(必1)	社会福祉学(必1)	社会福祉学(必1)	理学療法セミナーII(必1)	理学療法評価学II(必1)	運動療法(必2)	理学療法実習I(必1)	理学療法実習II(必1)
	ボランティア論(選1)		韓国語(選1)		生理学特論(必1)	心の健診科学I(選1)	心の健診科学II(選1)	理学療法演習II(必1)	理学療法演習II(必1)	理学療法演習II(必1)	運動療法(必2)	運動療法演習II(必1)	運動療法(必2)	理学療法実習I(必1)	理学療法実習II(必1)
					運動学II(必2)	教育心理学(選1)	教育心理学(選1)	運動学演習(必1)	運動学演習(必1)	運動学演習(必1)	運動療法(必2)	運動療法(必2)	運動療法(必2)	運動療法(必2)	運動療法(必2)
					整形外科学(必2)	整形外科学(必2)	整形外科学(必2)	神経障害学(必2)	神経障害学(必2)	神経障害学(必2)	高齢期障害理学(必1)	高齢期障害理学(必1)	高齢期障害理学(必1)	高齢期障害理学(必1)	高齢期障害理学(必1)
					精神障害学(必1)	精神障害学(必1)	精神障害学(必1)	発達障害学(必1)	発達障害学(必1)	発達障害学(必1)	脊椎障害理学(必1)	脊椎障害理学(必1)	脊椎障害理学(必1)	脊椎障害理学(必1)	脊椎障害理学(必1)
					発達情報論(必1)	発達情報論(必1)	発達情報論(必1)	応急処置法(必1)	応急処置法(必1)	応急処置法(必1)	運動器障害理学(必1)	運動器障害理学(必1)	運動器障害理学(必1)	運動器障害理学(必1)	運動器障害理学(必1)
					英語IV(選1)	英語IV(選1)	英語IV(選1)	チーム医療論(必1)	チーム医療論(必1)	チーム医療論(必1)	地城理学療法学(必1)	地城理学療法学(必1)	地城理学療法学(必1)	地城理学療法学(必1)	地城理学療法学(必1)
3年次											生活環境学(必1)	生活環境学(必1)	生活環境学(必1)	生活環境学(必1)	生活環境学(必1)
4年次											卒業研究I(必2)	卒業研究I(必2)	卒業研究I(必2)	卒業研究I(必2)	卒業研究I(必2)
											災害リハビリテーション(選1)	災害リハビリテーション(選1)	災害リハビリテーション(選1)	災害リハビリテーション(選1)	災害リハビリテーション(選1)
											徒手関節治療学(選1)	徒手関節治療学(選1)	徒手関節治療学(選1)	徒手関節治療学(選1)	徒手関節治療学(選1)
											神経筋機能障害学(選1)	神経筋機能障害学(選1)	神経筋機能障害学(選1)	神経筋機能障害学(選1)	神経筋機能障害学(選1)
											軽部組織治癒療学(選1)	軽部組織治癒療学(選1)	軽部組織治癒療学(選1)	軽部組織治癒療学(選1)	軽部組織治癒療学(選1)
											高次脳機能障害学(選1)	高次脳機能障害学(選1)	高次脳機能障害学(選1)	高次脳機能障害学(選1)	高次脳機能障害学(選1)
											スポーツ理学療法(選1)	スポーツ理学療法(選1)	スポーツ理学療法(選1)	スポーツ理学療法(選1)	スポーツ理学療法(選1)
											卒業研究II(必1)	卒業研究II(必1)	卒業研究II(必1)	卒業研究II(必1)	卒業研究II(必1)
											臨床実習Ⅳ(理学療法)(必7)	臨床実習Ⅳ(理学療法)(必7)	臨床実習Ⅳ(理学療法)(必7)	臨床実習Ⅳ(理学療法)(必7)	臨床実習Ⅳ(理学療法)(必7)

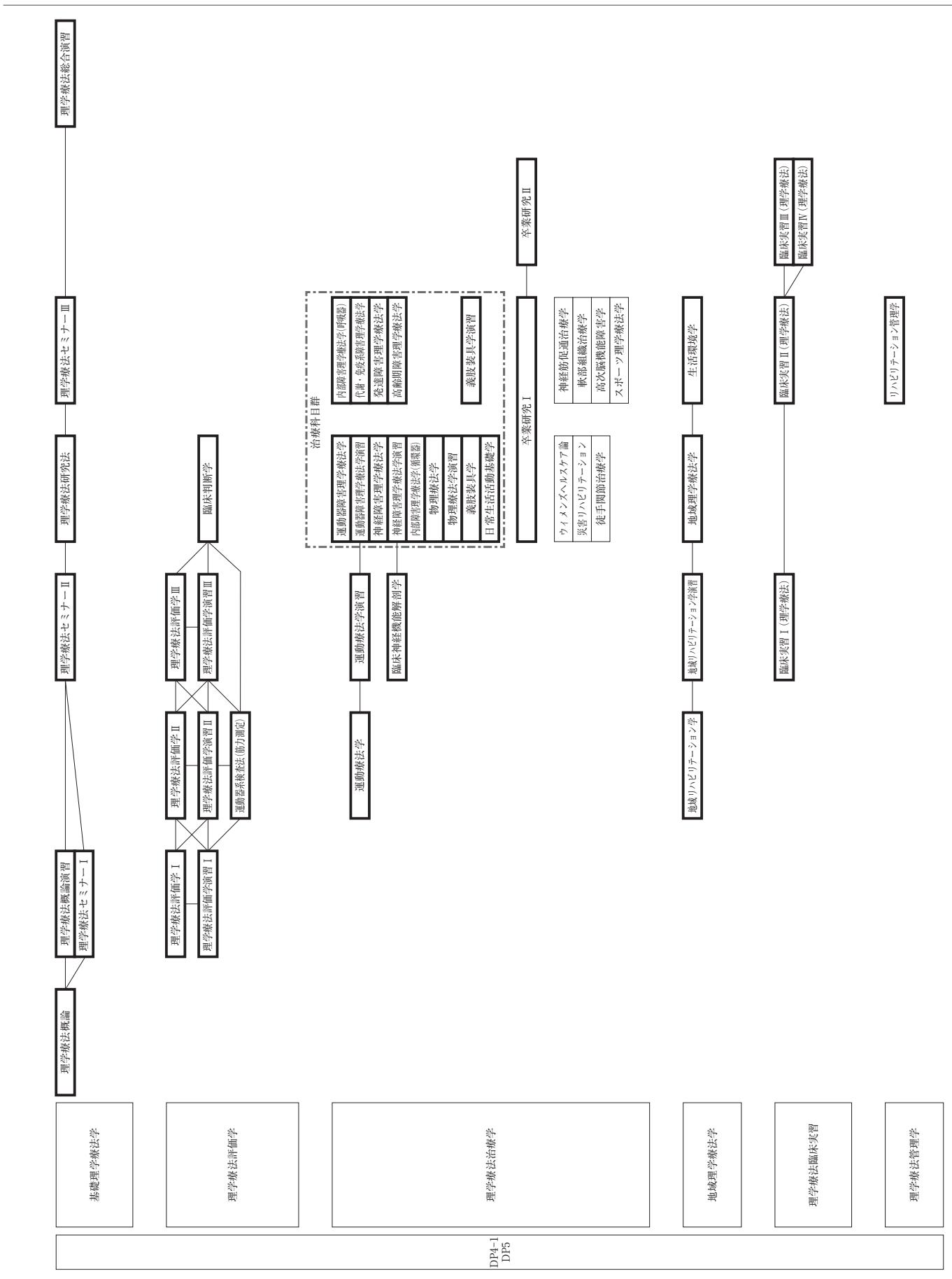
## カリキュラム・マップ 作業療法学専攻（2025年度カリキュラム）

※DP：ティプロマボリシー

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目		基礎作業療法学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学	作業療法臨床実習	作業療法管理学
		人間と社会の理解	語学						
DP	科学的思考の基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の理解	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学 作業療法評価学 作業療法治療学 地域作業療法学 作業療法臨床実習 作業療法管理学	DP2. リハビリテーション学に関する高い専門性と豊かな人間性を發揮して地域社会に貢献し、リハビリテーションの向上に寄与する能力 DP3. 対象者のために保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働する能力 DP4-2. 科学的根拠に基づき、良質な作業療法を提供する能力	DP4-2. 科学的根拠に基づき、良質な作業療法を提供する能力 DP5. 論理的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力		
	スタートアップ(必1)	日本語表現(必1) 英語I(必1) 英語II(選1) 中国語(選1)	解剖学 I (必2) 解剖学 II (必2) 解剖学演習(必2) 体表解剖学(必1) 生理学 I (必2) 生理学 II (必2) 運動学 I (必2)	病理学(必2) 薬理学(必1) 予防医学(必1)					
	心理学(必1)	倫理学(必1) 生命倫理(選1) 医療倫理(選1) 論理と哲学(選1) 医療と宗教(選1) 人間関係の科学(選1) 文化人類学(選1) 医療と社会(必1) 法医学(選1) 教育学(選1) 北海道史(選1)	リハビリテーション論(必2) 総合医療論(必1)	作業療法概論(必1) 基礎作業療法学(必1) 基礎作業療法(必1)					
	心生物学(必1)	生物物理学(選1)	リハビリテーション論(必2)	作業療法評価学(必1)					
	発達心理学(選1)	医療心理学(選1)	リハビリテーション論(必2)	基礎作業療法(必1)					
	生物学(選1)	生物学(選1)	リハビリテーション論(必2)	基礎作業療法学(必1)					
	物理学(選1)	物理学(選1)	リハビリテーション論(必2)	基礎作業療法(必1)					
	環境科学(選1)	環境科学(選1)	リハビリテーション論(必2)	基礎作業療法学(必1)					
	生活科学(必1)	生活科学(必1)	リハビリテーション論(必2)	基礎作業療法(必1)					
	情報科学演習(選1)	情報科学演習(選1)	リハビリテーション論(必2)	基礎作業療法学(必1)					
1年次	人間発達学(必2)	音楽(選1) ボランティア論(選1)	英語III(選1) 韓国語(選1)	心の健診科学 I (選1) 心の健診科学 II (選1) 教育心理学(選1) 運動学演習(必2)	社会福祉学(必1)	作業療法セミナー I (必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)	日常生活適応(ADL)(必1) 日常生活適応行動分析(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)
	音楽(選1)	音楽(選1)	英語III(選1)	解剖学特論(必1) 生理学演習(必1)	社会心理学(必1)	作業療法セミナー II (必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)	日常生活適応(ADL)(必1) 日常生活適応行動分析(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)
	ボランティア論(選1)	ボランティア論(選1)	英語III(選1)	解剖学特論(必1) 生理学特論(必1)	社会心理学(必1)	作業療法セミナー III (必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)	日常生活適応(ADL)(必1) 日常生活適応行動分析(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)
	音楽(選1)	音楽(選1)	英語III(選1)	解剖学特論(必1) 生理学演習(必1)	社会心理学(必1)	作業療法研究Ⅱ(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)	日常生活適応(ADL)(必1) 日常生活適応行動分析(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)
2年次	英語IV(選1)	英語IV(選1)	英語IV(選1)	心の健診科学 I (選1) 心の健診科学 II (選1) 教育心理学(選1) 運動学演習(必2)	社会心理学(必1)	作業療法研究Ⅲ(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)	日常生活適応(ADL)(必1) 日常生活適応行動分析(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)
	英語IV(選1)	英語IV(選1)	英語IV(選1)	心の健診科学 I (選1) 心の健診科学 II (選1) 教育心理学(選1) 運動学演習(必2)	社会心理学(必1)	作業療法研究Ⅳ(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)	日常生活適応(ADL)(必1) 日常生活適応行動分析(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)
	英語IV(選1)	英語IV(選1)	英語IV(選1)	心の健診科学 I (選1) 心の健診科学 II (選1) 教育心理学(選1) 運動学演習(必2)	社会心理学(必1)	作業療法研究Ⅴ(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)	日常生活適応(ADL)(必1) 日常生活適応行動分析(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)
3年次	英語V(選1)	英語V(選1)	英語V(選1)	心の健診科学 I (選1) 心の健診科学 II (選1) 教育心理学(選1) 運動学演習(必2)	社会心理学(必1)	作業療法研究Ⅵ(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)	日常生活適応(ADL)(必1) 日常生活適応行動分析(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)
	英語V(選1)	英語V(選1)	英語V(選1)	心の健診科学 I (選1) 心の健診科学 II (選1) 教育心理学(選1) 運動学演習(必2)	社会心理学(必1)	作業療法研究Ⅶ(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)	日常生活適応(ADL)(必1) 日常生活適応行動分析(必1)	施設接遇訓練講師研修(必1) 接遇訓練講師研修(必1)
4年次					健康政策論(必1)	作業療法総合演習(必1)	卒業研究Ⅰ(必1)	臨床実習Ⅰ(作業療法)(必1)	臨床実習Ⅱ(作業療法)(必1)

## カリキュラム・ツリー 理学療法学専攻（2025年度カリキュラム）





## カリキュラム・ツリー 作業療法学専攻 (2025年度カリキュラム)

